



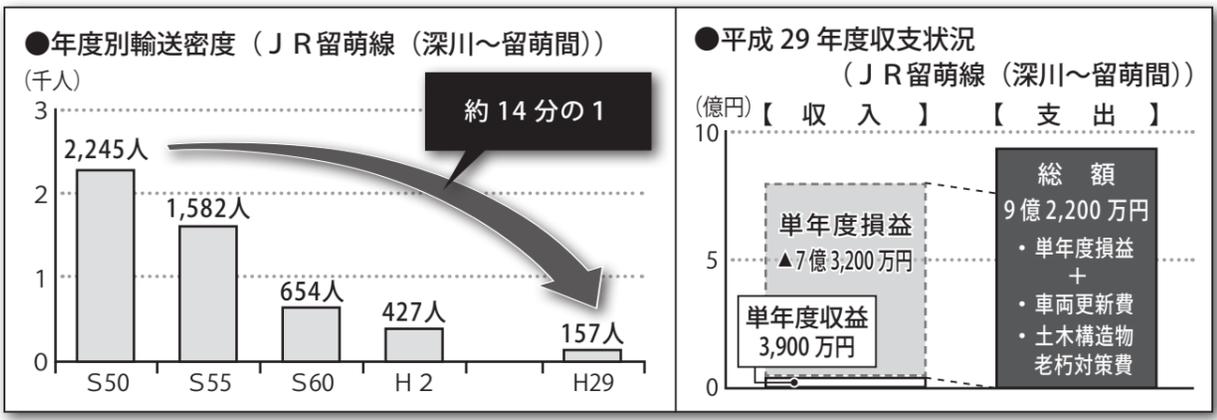
特集

最適な交通体系を整備するために

市では、まちの展望などを見据え、皆さんと一緒に取り組むことができる「持続可能なまちづくり」を推進しています。

問 市・政策調整課 ☎ 42-1809

■ J R 北海道



▼J R 北海道では、J R 留萌線 (深川~留萌間) について、「輸送密度 (1 キロメートル当たりの 1 日平均輸送人数) の減少や単年度損益を含む約 9 億円の赤字などを踏まえ、利便性・効率性の向上が期待できるバスなどへの転換について相談したい」と説明しています。

■ 留萌市

▼留萌市を含む J R 留萌線 (深川~留萌間) 沿線 2 市 2 町では、「J R 留萌本線沿線自治体会議」を設置し、J R 留萌線の存廃などに関する協議を進めています。また、留萌市では、地域交通の現状や課題などを調査するため、昨年 11 月に J R 留萌線の利用者アンケートを実施しました。

【利用者アンケートの概要】

- ◎回答者 40 人 (留萌~峠下間の利用者)
- ◎主な利用目的
 - 出張など 45%
 - 観光・旅行 27.5%
 - 通学・通勤 15%

利用者アンケートにより、「既存の路線バスでは、早朝・夜間に対応できない時間帯がある」などの課題があることが分かりました。

基調講演

北海道大学大学院工学研究院准教授の岸邦宏さんが「留萌地域が今考えるべき交通ネットワークのあり方について」について講演しました。この中で、岸さんは「『鉄道を残す場合は

住民が鉄道を使うという合意形成ができるか』などの課題解決を話し合いながら、まちづくりと連携した地域として持続可能な公共交通ネットワークを構築していくことが重要である」と話していました。

【今後、整理していくべき 3 つの課題】

- ①「J R 留萌線 (深川~留萌間) の存廃に関わるそれぞれの課題」の整理
- ②「高規格幹線道路深川留萌自動車道の全線開通に伴う、人やモノの流れをどう受け止め、新たな公共交通とまちづくりを今後どのように進めるか」の協議
- ③持続可能な公共交通網の構築に向けた「地域公共交通網形成計画」の策定

市では、上記の「今後、整理していくべき 3 つの課題」について皆さんと十分に情報共有しながら、最適な交通体系の整備を進めていきます。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

地域交通・まちづくりセミナーを開催

▼市では今年 2 月、「J R 北海道の路線見直しに伴う J R 留萌線 (深川~留萌間) の存廃」「高規格幹線道路深川留萌自動車道の全線開通」などを踏まえた公共交通・まちづくりのあり方を考えるきっかけとして、「地域交通・まちづくりセミナー」を中央公民館で開催しました。

- 【第 1 部】
- ① 4 団体からの情報提供
 - ② 基調講演
- 【第 2 部】
- ① ワークショップ
 - 「留萌市の地域公共交通の現状と課題」
 - 「住民にとって最適な公共交通とは」

第 2 部のワークショップでは、多くの市民と共に、留萌市の現状と課題について情報交換し、課題解決に向けたまちづくりのあり方についてご意見をいただきました。

4 団体からの情報提供

■ 北海道

▼北海道では、さらなる発展を支える北海道型公共交通ネットワークの実現を目指し、「北海道交通政策総合指針」を策定しました。この中で、J R 留萌線 (深川~留萌間) について、「利便性の高い最適な公共交通ネットワークの確保に向け、他交通機関との代替も含め、地域での検討・協議を進める」と説明しています。

●北海道型公共交通ネットワークの基本イメージ

【幹線交通】

- ◎高速性、大量輸送を担う交通ネットワークを継続するとともに、基盤の充実を進める

【広域交通】

- ◎それぞれの地理的な条件などを踏まえながら、利便性や接続性の向上に取り組むとともに、公共交通の維持・確保・機能強化を進める

【生活圏交通】

- ◎各地域でのまちづくりの形に応じながら、きめ細かな対応を進める

■ 沿岸バス株式会社

▼沿岸バス株式会社では、持続可能な公共交通を目指した取り組みとして、「慢性的な運転手不足という課題を抱えているものの、利便性の向上などを図るため、市内バスを再編して今年 4 月からバス停留所を増設する」と説明しています。